

1 自己評価及び外部評価結果

事業所番号	0691700066		
法人名	社会福祉法人たいよう福祉会		
事業所名	グループホーム ソーレ東根		
所在地	山形県東根市温泉町2丁目5-15		
自己評価作成日	令和 2年 10月 28日	開設年月日	平成 27年 3月 31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 2年 11月 20日	評価結果決定日	令和 2年 12月 16日

(ユニット名 南ユニット)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

できること、出来そうなことはチャレンジし毎日のホーム内の掃除・食事準備や後片付けまでお互いに役割を持ち、自分たちで生活している・生活する上で、一人一人が役割を持ち取り組んでいる。
また、一人一人に合った排泄パターンを確認し、全員がトイレで排泄できるよう援助・支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人理念を基にグループホーム理念に「自分のことは自分で決める」を掲げ、出来ることを取り入れ利用者同士が互いに認め合い安心して生活できるよう実践しています。生活リハビリに力を入れており、自分でトイレに行き自力で排泄が出来るよう支援しています。ものに触れることを大事にしながら利用者が何事にも積極的に参加して、「どうすればできるか」ということを常に考え取り組んでいます。利用者の状況に合わせてベッドに眠りスキャン等の介護ロボットを入れて、睡眠パターンを把握し急な離床への対応等利用者の安全と介護者の負担軽減等に役立てています。コロナ禍で家族の面会は時間制限等を設けて、細やかに感染症対策を行うなど利用者・家族等の意向を尊重し信頼を深めている事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
61	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価（結果）」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	以前行っていた朝礼での唱和は感染症予防により休止中。法人理念を共有するため、スタッフが見えるところ事務室・休憩室に掲示している。	理念を事務室等に掲示し「自分のことは自分で決める」を念頭に置きながら、利用者に寄り添う事を最優先にしている。利用者一人ひとりが互いを認め合い、出来ることは何かを考え、自分らしく暮らせるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症もあり、交流の機会がなく地域委員会を通し公園掃除・ホーム周辺のバス停などの清掃を行っている。	利用者と職員と一緒に公園清掃・バス停清掃を行っており、地域内の見守りや「搜索ネットワーク」等を通じ連携している。コロナ禍で交流が少なくなってきたが、地域からは認められ介護相談等で頼られるようになっていく。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年前はたいよう教室での介護教室やソーレカフェを催し勉強会・サロンを開催していたが、今年は新型コロナウイルス予防の観点から開催できずにいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を実施。会議の内容は全体会議を通してスタッフに伝えサービス向上に生かしている。	家族・市担当者・地域包括支援センター・地区役員・在宅診療所看護師等のメンバーで開催していたが、今年はコロナ禍のため文書開催となっている。運営や活動等の現況報告をし、返信用封筒を同封して意見を聞き運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	わからないところがあれば市役所福祉課に連絡し、相談助言をもらっている。また運営推進会議時もアドバイスをもらっている。	市担当者とは福祉情報や相談等で協力関係を築き、コロナ禍での情報や物品等の支援もあり連携を密にしている。7月の豪雨災害時には情報や対応策などのアドバイスをもらい良好な関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	感染症対策として、玄関は施錠中であるが身体拘束廃止の指針を全スタッフで共有し、スタッフで連携を取りながらケアにあたっている。	職員は身体拘束について研修を行い職員間でも話し合い、自由な暮らしを支援している。インカム(同時通話無線機)を利用し職員間での協力体制を整え、利用者の訴えにすぐ対応できるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議や法人内・外の研修を通し学ぶ機会を設け、虐待防止に努めている。今年は外部研修への参加は難しいがカンファレンス等を通して対応について話し合い、相談できるようにスタッフが悩み事を抱え込まないように努力している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等を通し、制度や必要性について学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重説を使い説明を行っている。その都度疑問点があれば聞き、十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内に意見箱を設置し、利用者や家族からの意見を取り入れている。	家族とは気兼ねなく意見・要望等が言える雰囲気づくりをしてケアプラン見直しの際や面会時に、遠方の方からは電話等で聞き取っている。意見箱と理事長に直結する「理事長ボックス」があり、誰でも思ったことを記入し出せるようになっており、内容等については話し合い、取り組みに反映させている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	理事長BOX意見箱があり、直接理事長に要望を伝えることができる。また事業所リーダー会議に理事長が参加し、直接意見を話す機会がある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価表を用い、面談を行いスタッフの能力の確認やこれから伸ばしていく能力を確認し向上心を持って働けるように努めている。		
13	(7)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	プリセプターによる法人内での研修や外部研修に参加している。また、年1回、自己評価表を記入し一人一人と面談を通し働く上での目標を立てている。	内部研修には経験等を考慮して人選し参加を促している。毎年行う施設長との面談で意見を述べアドバイスを受け自己目標の達成に繋げている。職員間はサンクスカード（ありがとうを伝える）で、感謝し認め合う取り組みを実践している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム協議会を通じ、他事業所と交流を図っている。	施設長は社会福祉協議会が主催する東根市認知症ケア推進委員となっており、認知症介護リーダーとして活動している。山形県グループホーム連絡協議会の会員間等で情報交換を行い業務に活かしている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	声掛け、説明、確認を行い、また寄り添うことで信頼関係を築けるよう努めている。また、個別対応時など声をかけ話しやすい環境下で聞き取りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が面会時には近況を伝え要望に耳を傾け、また遠方の家族様への利用者状況表や通信を通じ状況を伝えつつ、希望や要望の確認を行っている。県外の家族へはリモート面会や電話で会話の機会を持ってもらっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者本人や家族に意見や要望を聞き取りできる限り要望に近い形で介護サービスを提供するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の身体状況に合わせて、できる作業を提案。本人の希望する作業に取り組んでもらい関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会時に近況を伝え、笑顔になったこと良かったことなどを多く伝え安心していただけるようにしている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人家族の希望があれば、かかりつけ医を継続したり、また、家族以外の面会も来ていただけるようにしなみみの関係が途切れないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がかかわりあえるように軽作業や行事での作業を進めている。大勢が集まると混乱する方もいるため声をかけ落ち着いてから参加している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去をする際新しい受け入れ先や本人に合ったサービスの紹介、必要な情報を伝え今後の生活をフォローしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴時や居室で一人になったときに、硬くならず話ができるように声掛けしながら聞き取りを行っている。また、家族面会時など様子を伝えながら希望を聞き取るようにしている。	居室内や入浴の際などに、普段の生活の場面や何気ない会話、表情から思いや意向を引き出している。関わりの中で小さな変化も見逃さないように観察し利用者の意向に沿えるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴、生活環境の聞き取りを行い入居後も以前と同じように生活できるように努めている。また、ケアマネジャーを通し、		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方、表情や話し方などから心身状態を把握し、現状に合わせた対応を行うよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	普段からカンファレンスを行ったり意見やアイデアを出せるようにしている。	居室担当者は利用者と向き合って、日々話し合い寄り添っている。利用者から生活の中で自分が出来る事をやってもらい達成感を味わってもらっている。全職員の意見を反映し本人の立場に立った介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や申し送りノートで情報の共有を行っており、ケア方法の見直しや統一を図っている。また、朝礼時に統括リーダーが状況を確認時当日の重点して行うケアについてスタッフに伝達している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している			
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望があれば、かかりつけ医を変更せず対応している。かかりつけ医とは連絡を取り、適切な医療が受けられるように支援している。	利用者や家族の意向で隣接する在宅診療所の訪問診療を受ける方や、入居前からのかかりつけ医に職員や家族付き添いで受診する方もおり、必要に応じて家族と共に職員も同行している。今般「ソーレ東根コロナステージ毎の対応」を策定し17項目に分類した内容に4ステージ毎の具体的な対応を定め新型コロナウイルス感染防止に取り組むなど、危機管理を強化している。	
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常時看護師が勤務しているため、普段から変化や気づきがあれば、看護師に相談し利用者が適切な受診や看護が受けられるように支援している。		
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院となったときは、施設から必要な情報を提供している(介護・看護サマリー)また、退院時に退院前カンファレンスに参加し協力病院やかかりつけ医と関係づくりをしている。		
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入院時に重度化した場合、終末期や重度化した時の対応について説明し、家族に意向を確認している。	契約時に重度化した場合の対応と「看取り介護指針」の説明を行い、意向の確認をして同意書を得ている。利用者と家族等からは最期まで住み続けたいとの意向が多く、段階に応じて話し合いを重ね方針の変更や看取りの要望にも応えている。医療機関と連携しながら家族等・全職員が状況を共有し、今日できることを大切にして過ごせるよう最善を尽くしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設や法人内での研修や会議を通して勉強会を行っている。		
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方と合同で防災訓練を実施。また、防災の日には炊き出し訓練も実施している。	法人施設合同で行う総合訓練で本年度は水害を想定し隣接する特別養護老人ホームへ避難し階段昇降の訓練も行い、終了後職員アンケートを実施し反省点は次回の改善に繋げている。防災の日にはライフラインを止めて炊き出し訓練を行い、災害時の状況を実感できるようにしている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	相手の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない声掛けや対応を心掛けている。	家事や畑仕事などの活動では経験で培った要領を職員に教え、感謝の言葉に役割を担い必要とされている事に充実感を味わっている。呼び掛けは名字や名前・幼いころの愛称や「お父さん」など、一人ひとりが認識でき誇りを持てる呼び方をしている。	
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日ごろから、本人の希望を聞き取り自己決定できるように働きかける。		
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースで自由に過ごしてもらっているが、ある程度の日程の声掛けを行っている。声をかけても、入居者の希望があればそちらを優先させている。		
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ある程度は入居者に任せている。居室洗面所の鏡の前などで声をかけ、ともに整えるようにしている。		
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好きなこと、得意なことを活かし職員とともに食事を作ったり、後片付けをしている。	食材宅配業者が提供する食材を、職員と共にエプロンを着けて切ったり炒めたりする利用者もあり、手伝ってもらい調理している。寿司やラーメン・郷土食などの希望もあり、日々の食事や行事の折に出前を利用して応え喜ばれている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人に合わせた食事形態や量を提供している。また午前・午後に水分を摂る時間を設けたり、本の状態に合わせて声掛けし水分を提供している。		
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。法人の歯科衛生士より時折指導を受けている。		
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個人の排泄パターンや習慣を把握し、トイレの呼びかけや誘導を行っている。	排泄を日常生活動作に於けるポイントと捉え重要視し、日ごろの行動をよく観察し明細に記録しながら排泄パターンを共有している。排泄用品の使用は必要最小限に抑え、トイレでの排泄を大事にして不快感なく生活できるよう支えている。	
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時に乳飲料を提供している。また水曜日はヨーグルト、日曜日は果物をおやつで提供。排便の有無を確認し、排便がない時は水分摂取の呼びかけやトイレ内で腹部マッサージ等を行っている。		
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日を曜日ごとに固定しているが、本人の希望があれば入浴日の変更や時間の変更をできる。また入浴時間をその都度本人に確認している。	曜日毎に利用者の状況に合わせて同性介助や二人介助も行い、檜風呂の香りの中でゆったり入ってもらっている。拒否する方には家族から話してもらうなど連携し納得してもらい、浴室では職員と二人だけの会話で、思いを聞き出す貴重な時間ともなっている。	
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのその時の状況や状態に合わせ、照明やエアコンの調整を行っている。		
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケース記録に薬の情報紙を入れていつでも服薬している薬の効能を確認できるようにしている。また服薬の変更があったときはケース記録や申し送りノートに記入し連絡している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の生活歴を知り、その方に合った作業や役割を提供し気分転換を図っている。		
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人から希望があれば買い出しに行っている。また、家族と相談し誕生日には本人の行きたいところへ外出等をしている。	コロナ禍で昨年まで行っていた外食や買い物ができなくなり、感染防止対策をして車窓からの花見や紅葉狩り・郊外の公園などに出かけ、季節を感じながら気分転換を図っている。また日頃から車椅子の方も一緒に散歩をしたり、外気浴も兼ねて畑仕事に勤しんでいる。	
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の管理能力に応じてある程度の金額は入居者が持っていることもある。		
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から希望があれば、電話や手紙のやり取りに対応している。家族が県外の場合、感染症予防から直接の面会ができないため、リモート面会や電話をかけている。		
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内に行事ごとの写真を掲示している。季節に合った掲示物を入居者と一緒に作成し掲示している。	リビングでは体操や掃除で体を動かし、折り紙・写真のコラージュ・塗り絵などの創作や家事など得意な事で力を発揮し、職員の見守りの中で生き活きとした表情で過ごしている。またインカムを導入し同時に複数の支援が必要となった場合でも職員同士が応援に駆け付け、対応できるシステムとなっている。	
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアだけでなくカフェを併設しているため、気の合う入居者同士で過ごすことができる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたタンスや飾っていた人形を置き本人が居心地よく過ごせるように工夫している。	居室にはベッド・クローゼット・洗面台が備え付けてあり、使い慣れた物を自由に持ち込んでもらい、利用者の身体状況に合わせた配置をして、くつろげる空間となっている。必要に応じて眠りスキャンを設置し、睡眠状態の把握や不意な立ち上がりへの対応など健康と安全な生活を支援している。	
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人に合ったADL状況を見極め、食席や手伝い、役割を決めている。なじみの関係性が崩れないよう入居者間の橋渡しを行っている。		